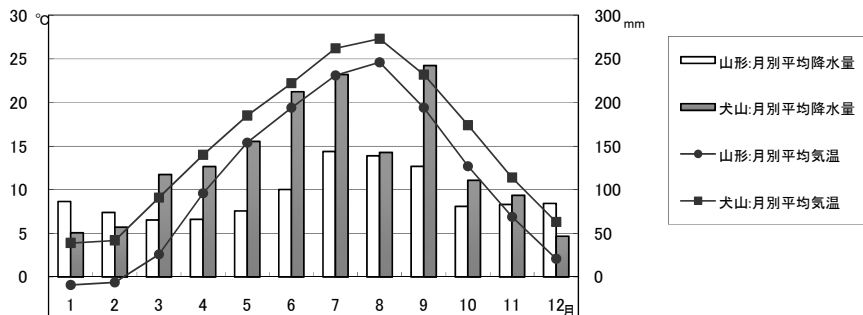


がっさんさんろく
山形県 月山山麓の家

豪雪地帯の出羽山地、月山の麓、月山沢に、1767年に建てられた中門づくりの養蚕農家を移築しました。月山沢は1976年にダム建設のため廃村となり、水没しました。



気候と住まい：雪とともに暮らす冬

表面おもてめんのグラフをみると、12月～2月にかけて、山形月山山麓がっさんさんろくの方がここ犬山よりも月別平均降水量が多くなっていますが、その多くは雪です。冬のあいだ、3～4mもの雪が月山山麓では積もります。

【中門づくり】

曲がり屋の一種で、日本海側の豪雪地帯こうせつに特徴的な建築様式です。土間の手前おおとにある大戸が家の入口で、中門は雪を払ったり、農具などの物置きとして使われ、屋内の暖気を逃がさない工夫です。冬の間は、中門の外に“雪ローカ”と呼ぶ突出部とっしゅつぶを設けます。

【雪囲い】

深雪地帯では、冬になるとカヤやムシロで家を囲みます。これを雪囲いといいます。これは寒さ対策であるとともに、雪が家にくっついて押しつぶさないようにという工夫です。

【明かりとりの障子窓】

雪囲いしょうじは障子しょうじの上の鴨居かもいあたりまでおおうため、家の内部は薄暗くなってしまいます。そのため、軒のきをできるだけ高くあげ、その壁に窓を設けて、採光口さいこうぐちとします。

【板壁】

土壁つちかべは雪に弱く、崩れてしまうので、板壁とします。

【重さ対策】

雪の重みに耐えるように、太くてがっしりした木材を柱や梁はりに使います。

【雪おろし】

“雪ぼり”といい、ひと冬に6、7回は屋根に登って、雪を融雪池ゆうせついけに落とし、水を流して溶かします。

【道踏み】

冬、子どもたちは朝起きると、カンジキをつけて、まず道踏みみちらをします。毎日のように、一日に何回もします。

